

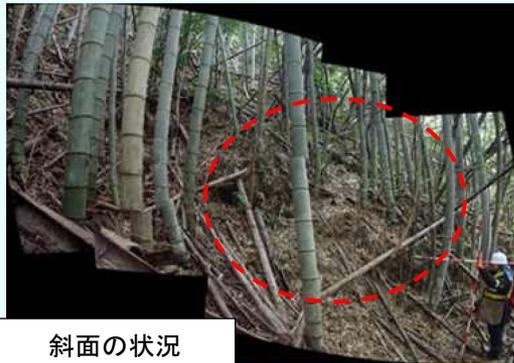
# テックドクターによる現地調査 (福岡県飯塚市大日寺)

令和元年度に実施されたLP計測データを用いた簡易地形判読により危険性が指摘されたことから安定度調査を実施した結果、地すべり地形があることが分かった。

斜面には不安定土塊と考えられる小規模な起伏地形、地すべり末端部の押し出し地形等が確認されたため、地質調査等の結果も踏まえ現地状況の詳細な把握のため、学識者による現地調査を実施した。

出席者:九州工業大学 永瀬名誉教授、廣岡教授

## ● テックドクターによる調査



斜面の状況



地質調査説明状況



会議状況

### 【現地の状況等含めた意見について】

- ・現時点では地すべりの予兆は認められないため、現状では安定しているものと考えられるが、引き続き定期的に点検を行うことが望ましい。
  - ・パイプ歪計や地下水位計を用いた動態観測は継続的に実施した方が良い。
  - ・LPデータ(三次元点群データ)を活用することにより、従来点検時には見落としていた斜面内の凹凸地形(滑落崖等)が確認できるようになった。今後は予防保全の観点で評価することが必要と考えられる。
- 点検と動態観測を継続的に行い、必要に応じて対策を検討する。  
また、検討に際しては降雨の状況も踏まえた上で対応検討することを考えていく。

# テックドクターによる現地調査 (福岡県岡垣町旭南)

国道3号岡垣町において、道路巡回中に歩道部の亀裂が大きくなっていることが確認された。過去の点検状況からすると進展している可能性もあるため現地状況の詳細な把握及び対策の検討のため、学識者による現地調査を実施した。

出席者:九州工業大学 永瀬名誉教授、廣岡教授

## ● テックドクターによる調査



### 【現地の状況等含めた意見について】

- ・地下水変更の伴う土砂の流出により、緩みの伴う沈下の発生が発生しているのではないかと推察される。変状発生箇所は旧沢地形の出口付近に位置し、道路は宅地開発された造成盛土に腹付けされている。
- ・井桁擁壁上部の道路や歩道には開口亀裂や空洞部が見受けられるため、補修時には、舗装を剥いで、盛土表層の緩み状況を目視で確認することが必要である。
- ・井桁擁壁の表面の一部には黒色を呈している箇所(ゾーン)が見受けられる。盛土内の湿潤状況を反映している可能性も考えられるため、留意が必要である。
- ・井桁擁壁脚部の湧水箇所周辺は湿地状を呈しており、歩道脇の土壌も高含水状態となっている。また、井桁擁壁脚部の水路には土砂が堆積している。これらのことから、流末の排水機能の低下が湿地状を呈する要因と考えられる。